



あがり

地域 貢献

令和3年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応を迫られる1年となり、人と人が接する活動を自粛せざるをえない状況が続いています。そのような中

でも、新型コロナウイルスワクチン接種への協力、学生消防団、ボランティアサークルによる見守り活動など、本学の学生、教職員とともに、“今できる活動”を行ってきました。これからも、人と人がつながる活動を継続し、本学の基本理念である“人々の健康と福祉の向上に貢献できる大学”の実現を目指します。



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ワクチン集団接種への協力



昭和町出前夏祭りにおける毛布担架の作り方実演（学生消防団）



小学生見守り活動（ボランティアサークル）

卒業生らが新型コロナウイルス感染症拡大防止 支援活動をスタートさせました！



Twitterアカウント

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るう中、嶺南地域の医療を支えたい、災害に備えるために役立ちたいとの思いで集まった敦賀市立看護大学卒業生らの有志で2020年5月8日に“敦大コビト基金の会”を立ち上げました。

2021年5月に、募金活動等で集めた基金をもとに購入した手指消毒剤とニトリル手袋を訪問看護施設へ寄付をさせていただきました。これを皮切りに支援が届きにくい小規模施設への支援を続けていきます。本学、救急・災害看護研究センターはこの活動をサポートしております。



敬仁会24訪問看護ステーション



訪問看護ステーションめいほう

地域 貢献

新型コロナウイルスワクチン集団接種への協力

敦賀市立看護大学では、地域の大学としての使命を果たすべく、活動として敦賀市における新型コロナウイルスワクチンの集団接種の支援に参加しています。

敦賀市及び二州健康福祉センターから協力依頼をいただいたのは、令和3年3月のことでした。今でこそ多くの大学が接種への協力を行っていますが、当時は大学が接種会場を提供し、さらに教職員が接種協力する例は少ない状況でした。

全国の大学に先駆けて、敦賀市の集団接種では、医師や看護師資格を持つ教員が、土曜日、日曜日を利用して交代で参加しています。これまでに延べ約110名(10月24日現在)がワクチン接種、経過観察、接種相談、副反応対応への助言などの業務に従事し

ました。また、美浜町にも事務職員9名が交代で参加し、延べ約20名(10月2日現在)が受付業務に従事しました。この他にも、集団接種の開始に先立って、本学の教員(医師)がワクチン接種に従事する医療関係者を対象とした研修会の講師を務めるなど、様々な場面で協力させていただいています。

ワクチン接種への協力は、住民の方々の接種が完了するまで継続させていただく予定です。このような取り組みが、ワクチン接種体制の更なる充実に繋がり、接種を希望する方が少しでも早く受けられることができると願っています。



小学生見守り活動 (ボランティアサークル)

本学では、1～4年生の34名がボランティアサークルで活動しています。これまで小児ガンへの理解や治療支援のための広報および募金活動、高齢者施設のイベントやこども食堂などの活動に参加してきました。

9月15日には、敦賀市立松原小学校への登校中の児童の安全を見守る活動に参加しました。実施するにあたり、市内の宇野電気商会様より防犯パトロールグッズとしてビブス、帽子等を寄贈いただきました。

贈呈式では、ボランティアサークル代表の中神さんが「コロナ禍でなかなかボランティア活動ができない中、今回このように見守り活動にお声をかけていただき感謝しております。いただいたグッズを活用してこれからも地域に貢献していきます。」と挨拶をしました。



松原小学校への登校時の見守り活動



宇野電気商会様より見守り活動グッズの贈呈



救急・災害看護研究センター事業 卒業生対象! アメリカ心臓協会 BLSライセンス更新のための講習会

救急・災害看護研究センターでは、本学の卒業生を対象にアメリカ心臓協会が主催している一次救命処置ライセンス更新のための講習会（AHA-BLS コース）を行っています。コロナ禍により昨年は中止いたしました。本年は、新型コロナウイルス感染症予防対策を十分行った上で、県内勤務者に限定し参加を呼びかけたところ、4名の卒業生の更新希望がありました。

卒業生から「講習会に参加でき、心肺停止状態に遭遇しても自信を持って対応できる」などの感想が寄せられ、BLS ライセンスが更新できたことに満足されていました。今後も卒業生のニーズに応えられる支援を行っていききたいと思います。

学生消防団活動の紹介 昭和町出前夏祭り 毛布担架の作り方を実演

学生団員*は、昭和町出前夏祭り(8月21日)において、避難に利用できる毛布担架の作り方を実演しながら紹介しました。

昭和町には、住民が集まり楽しめる盛大な夏祭りがあります。今年は、コロナ禍の影響により、公園など3か所をめぐる出前夏祭りとして行われました。学生は、昨年、災害から命を守る健康づくりと防災対策をテーマに、昭和町の調査を行いました。今年には、防災時の支援活動として、毛布担架の作り方を実演しました。その結果、住民から「毛布担架は体重が重い方でも運べるのか」など質問があり、興味を持って参加いただけたようでした。区長の中村様は「看護大学生さん達が来てくれて、夏祭りに住民の関心が向けられてよかった」と話されていました。引き続き、防災訓練や救命講習等への活動に取り組んでいきたいと考えています。

*学生団員：敦賀消防団機能別班の団員であり、本学では15名の学生により組織されている。



卒業生との交流会を開催(7月24日)しました！

救急・災害看護研究センターが中心となり、卒業生との情報交換、救急・災害に関する相談、大学在学中に学修した教育内容の評価などを話し合う会を開催いたしました。コロナ禍ということもあり、対面とリモートを組み合わせた形で行い、15名の卒業生が参加しました。

職場での仕事内容の紹介を始め、久しぶりの再会ということもあり、大学生生活の思い出などに話が弾み、盛況なうちに会は終了しました。

卒業生からの主なコメントは、「卒業研究が面白かったため大学院に進学したいと思い、実際に進学して頑張っています。」「大学で習った知識や技術が患者さんの観察に活かしています。」「患者さんの言葉や医師の指示ひとつひとつに対し、気持ちや背景、理由や意味について深く考えながら働くことができています。」「大学で救急・災害看護学を専攻したこともあり、職場では災害委員として勉強会を開催するなどして頑張っています。」などでした。

引き続き、本学では、現場で活躍する卒業生からの意見を聞き取り、今後の教育に活かしていきたいと考えております。



活躍する卒業生たち

私は卒業して4年がたちました。大学の実習先である市立敦賀病院で働いています。実習期間は先生方や後輩の姿を目にすることもあり、懐かしく感じながらも、卒業生として気が引き締まる思いをしています。

私が現在勤務しているのは消化器外科、内科の病棟です。入職から昨年までは内科病棟で勤務していたため、今は消化器科特有の術前、術後の看護や処置の勉強に励んでいます。知識や経験が不十分なため、患者さんの対応に悩むことも多々あります。そんな時は学生時代の講義や実習を思い出しながら疾患の理解に努めています。看護にあたっては、基本に立ち返り意識して患者さんのニーズに目を向けてケアに当たれる看護師になりたいと考えています。



中村千尋さん (2017年度卒業)

私は3年間病棟で勤務したのち、現在はデイサービスで働いています。仕事内容は、バイタルチェックや内服管理、傷の処置などの健康管理、入浴介助、機能訓練の補助などです。利用者さんに安全に楽しく過ごしていただけるように、また、利用者さんの生活がより良いものになるようにと心がけています。基礎看護はもちろん、老年看護、在宅看護をはじめとする大学で学修したことや、病棟勤務で実践してきたことが活かされていると感じています。利用者さんの元気な顔をみることが楽しみであり、充実した毎日を送っています。これからは小さな変化に気づく観察力を磨き、必要な対応・判断が出来るよう努めていきたいと思っています。



水野千尋さん (2017年度卒業)

私は現在、福井赤十字病院の集中治療室で働いています。集中治療室の患者は重症度が高く、また生命に直結する薬剤や医療機器の扱いに緊張感を持ちながら日々働いています。大学では在宅看護学を選択し、将来は訪問看護師として働くことを目指しています。

集中治療室での様々な診療科の患者への対応や個人への観察力、アセスメント力が鍛えられる日々は将来の在宅看護に活かされる良い経験になると思い毎日頑張っています。

責任の重さにくじけそうになる時もありますが、大学で共に学んだ友と励まし合いながら、集中治療室での看護と同時に将来訪問看護師を目指して日々努力していきたいと思っています。



天谷零さん (2018 年度卒業)

私は、福井県内の保健所に勤務しています。保健所には、感染症対策から健康づくりと幅広い業務がありますが、その中で難病・母子保健を中心に担当しています。地域で生活する住民を支える支援機関やサービス内容は年々充実してきており、それに伴い支援者も増加しています。そうした中で保健師としての私には何ができるのか、どのような役割が担えるのか考えさせられます。保健師は「地域を見る(みる)、地域を護る(まもる)」仕事と言われますが、大学で学んだことを思い起こしながら仕事に取り組んでいます。もちろん、簡単なことではなく、自身の行った支援を振り返って「本当にこれでよかったのか」と考える毎日ですが、地域を見る・護れる保健師になれるよう、頑張っていきたいと思っています。



上島清花さん (2018 年度卒業)

私は、手術室で勤務しています。ここでは癌や骨折など様々な疾患によって手術を受けられる患者を対象に看護を提供しています。手術を円滑に進めるために患者の状態把握や器械出しを行うなど仕事内容は幅広く、多くの知識と技術が求められます。大学で学んだ解剖学や病態生理学の知識が、患者の状態把握や術野で何が行われているのか理解するために活かされています。今後はさらに知識を深め、患者が安全かつ安心して手術を受けられるように精進し、看護を提供していきたいと思っています。



勝木慎也さん (2019 年度卒業)

私は、泌尿器科・整形外科の混合病棟に勤務しています。当科は手術件数が多く、手術前後の観察に対する経験値をアップすることが重要と感じています。術後の状態観察等は緊張しますが、学生時代に得た知識が現場で活かした時にはとても嬉しく感じます。

加えて、コロナ流行後は病棟編成により他領域の患者さんも受け持つようになり、慣れない処置も沢山ありました。本来ならなかなか経験できない他領域を学ぶことができ、これらの経験もこの先に必ず活かされると思い業務に取り組んでいます。同期や先輩方と声を掛け合い、安全な看護を提供することで、患者さんが元気に退院されるのを見送る瞬間が私の喜びの一時です。



中辻彩音さん (2019 年度卒業)

私は、大阪の二次救急医療機関の救急部で働いています。トリアージ、採血ルート確保、検査などの初期対応、医師の介助、家族対応など、患者の緊急度と個性に合わせた看護を日々行なっています。大学で学んだフィジカルアセスメントは基本中の基本で、患者を捉えるのにとても役立っています。また、コロナ患者の受け入れもしているため、感染対策、防護具の使用など、大学の演習で行ったことを毎日活かしています。救急では倫理的場面が多く、その度に様々な視点から患者、家族にとっての最善とは何か考えさせられます。先輩の行動や声かけから毎日学ぶ事が多く、私も先輩のように根柢を持って行動できるようになることを目標に頑張っています。



石津わかなさん (2020 年度卒業)

私は現在、救命救急センターで勤務しています。毎日心肺停止や脳卒中、多発外傷など、重篤な状態の患者を受け入れ、先輩方とともに看護を行っています。日々勉強の毎日です。最近では、在学中に救急・災害看護学分野で取得したBLS(一次救命処置)の資格を活かして、ACLS(二次救命処置)の資格を取得しました。より高度な救命の知識技術を学び、救急看護の奥の深さを実感しています。



八田菜々美さん (2020 年度卒業)

2021 TSURUGA ENGLISH CAFE

新型コロナウイルス感染症は、本学の特色の一つでもある海外語学研修(カナダのオカナガンカレッジでの3週間の語学研修とホームステイ)にも影響を及ぼし、今年も受け入れがキャンセルとなりました。

そこで、敦賀気比高校ALTの協力を得て、地元敦賀に暮らす外国人と英語で直接話せる機会をつくりました。7月より“イングリッシュ・カフェ”の取り組みを始めたところ、初回は1・2年生9名の参加がありました。

“イングリッシュ・カフェ”は正規の英語授業とは異なり、放課後のリラックスした環境で行われます。英語で使用する教材は、評判の良いTED talksのプレゼンやYouTubeの話題です。それらを通して自由に意見交換を行ない考える世界を広げていくことも目指しています。学生たちの他に2、3名の教員も参加しています。これからも新たな参加者が増えていくことを期待しています。



オープンキャンパス



今年度、本学ではオープンキャンパスを2回(第1回:7月18日、第2回:11月3日)開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、参加は、福井県内の高校生に限らせていただき、あわせて約177名にご来場いただきました。

当日は、本学の特色やカリキュラム、入学試験についての説明「大学紹介」や実際の講義を体験する「模擬講義」、「看護学演習体験」、「進学相談コーナー」、「学生生活コーナー」などのプログラムを実施しました。

参加者からは、「学生さんや先生方が笑顔で優しく接してくれたので、安心して参加できました」、「参加して大学の雰囲気を感じることができ、この大学に進学したい気持ちが強くなりました」、「地域の人と交流しながら学べるところがとてもいいなと思いました」などのお声をいただくことができ、本学の特色や魅力を感じていただけたようです。

第4回敦賀市立看護大学 研究報告会

9月30日に「地域・在宅ケア研究センター」の事業として「第4回敦賀市立看護大学研究報告会」を開催しました。この事業は、研究成果や実践活動の報告を通して、多職種が連携を深め、看護や地域医療保健福祉活動の質の向上につながることを目指しています。今年度は、訪問看護ステーションの認定看護師や食生活改善推進員による実践活動、大学教員による研究成果、学生による健康づくりと防災対策の学習成果など8演題の報告がありました。参加者は、研究報告者、学生、教職員、一般市民等あわせて115名で、研究報告者からは「看護実践を知ってもらえる機会になり、報告してよかった」、学生からは「研究への興味が高まった」等の感想が寄せられました。今後、敦賀市内の多職種が報告を通して交流を深めると共に、大学として地域への貢献につながる成果に結びつけていきたいと思ひます。

(地域・在宅ケア研究センター)



着任教員の挨拶

学部の成人慢性看護学関係の科目と実習、ターミナル看護、看護の歴史と理論、修士課程の看護理論、慢性病看護学特論を担当させていただいています。研究領域は、がん看護学、中でも症状マネジメントに関して行っています。



理事/教授
内布 敦子
うちぬの あつこ
(成人慢性看護学)

民間企業で病院情報・経営のシステムに関わる業務を約8年、医療系の大学で情報科学や統計に関する教員を約13年経験してきました。看護師に必要な情報・経営の基礎を身につけてもらえるような授業にしたいと考えています。



教授
萬代 望
まんたい のぞむ
(一般教養 [情報科学・統計処理])

ピーヒョロロロとトンビが長閑に鳴いている空に感動しています。
どうぞよろしくお願いいたします。



助教
小山 珠美
こやま たまみ
(成人看護学)

母性看護学・助産学実習を担当しております。実習では看護師を志す学生が、学びを深め、自信をもって活躍できるように、臨床の場で経験してきたことを一つでも多く伝えられたらと考えております。よろしくお願いいたします。



助手
小林 愛
こばやし めぐみ
(母性看護学・助産学)

豆知識
コラム

カフェインについて、知っておきたいこと

臨床医学 医療教育
徳永日呂伸教授



昨今のエナジードリンク人気も手伝って、特に若い世代のカフェイン過剰摂取が社会問題として取り上げられ、中毒死等の悲しいニュースも散見されます。

今回このコーナーでは、カフェインについて知っておきたいことを整理してみましょう。

カフェインの効能(ありがたい作用)は、眠気や疲れを感じにくくなる、頭脳的にも身体的にもパフォーマンスがあがる等ですが、そうした作用は“脳をだまして”もたらされるため、決して疲労が消滅したり蓄積しなくなったりする訳ではないことを、まず理解しておく必要があります。

反対のありがたい作用(≡副作用)は、大量摂取や過度の常用などに伴って起こり、不眠、頭痛、不整脈等がありますが、程度によっては命に関わることもあり、決して甘く見てはいけません。

日本にはカフェインの摂取上限についての公的な規定はありませんが、400mg/日・200mg/回(成人の場合)という基準が世界的には用いられており、この値を超えないように注意することは有意義だろうと思われま。

具体的には、自分が摂取する飲食物や市販薬などにどれだけ入っているか調べればよいのですが、その際には検索した結果や製品に表示されている値が「一回量あたり」の量なのか「100ml等单位あたり」の量

なのかを必ず確認し、実際の一回あるいは一日合計の摂取量を正確に把握する習慣をつけましょう。

カフェインという物質は、一度に過剰に摂取したり不必要に習慣化したりせず適切に用いれば、時にとても役立つ場面があることは古くからよく知られています。その特徴を理解して、ナポレオンやゲーテも愛したという歴史ある化学物質と上手に・安全に付き合っていきたいですね。

カフェインの摂取上限

成人 **400mg/日以下** (妊婦は**200mg/日以下**)
200mg/回以下
児童～青年 体重1kgあたり2.5mg/日以下 [50kgなら125mg]

含有量の目安

コーヒー1杯



100~200mg

コーラ350ml
エナジードリンク1本



20~140mg

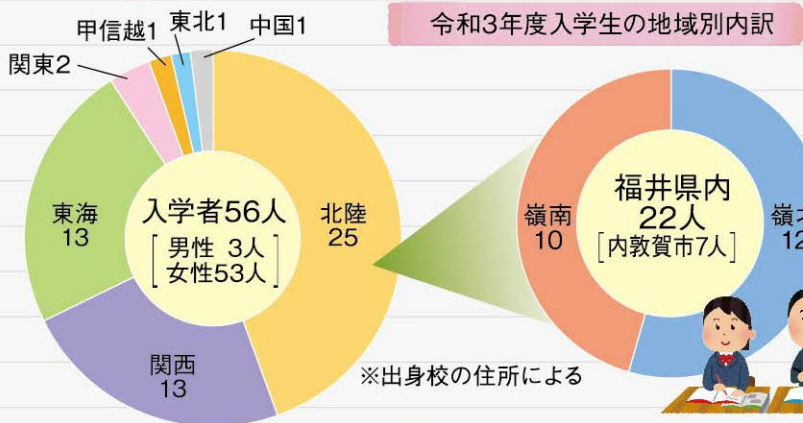
カフェイン錠・内服液 (1日量)



100~200mg



入試関連情報



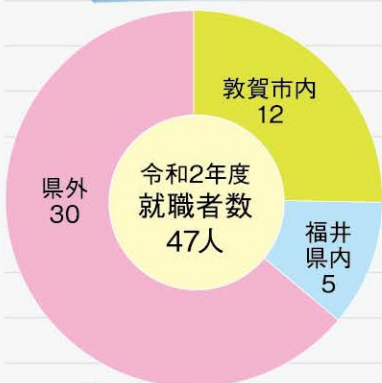
敦賀市立看護大学
ジャーナル

敦賀市立看護大学は敦賀市、嶺南地域における「知」の拠点としてその機能を果たすべくジャーナルをホームページで公表しています。

◎本ジャーナルが幅広く医療に関心ある方々のお役にたてればと考えています。

卒業生の進路状況

就職勤務地内訳



看護師

- 【敦賀市内】市立敦賀病院／国立病院機構 敦賀医療センター
【福井県内】福井大学医学部附属病院／JCHO福井勝山総合病院 (医)厚生会 福井厚生病院／福井赤十字病院
【県外】市立砺波総合病院／富山県立中央病院 白根保健生活協同組合 新潟白根総合病院／市立大津市民病院 (医)誠光会 草津総合病院／市立長浜病院／大垣市民病院 高山赤十字病院／岡崎市民病院／小牧市民病院 国立病院機構 名古屋医療センター／名古屋大学医学部附属病院 (特医)丸山会 丸子中央病院／(医)徳洲会 宇治徳洲会病院 京都府立医科大学附属病院／大阪府済生会茨木病院 (公財)田附興風会 医学研究所北野病院／大阪府済生会中津病院 (医)大道会 森之宮病院／大阪府済生会吹田病院 大阪大学医学部附属病院／関西医科大学附属病院 神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院 東京都立多摩総合医療センター 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 横浜市立大学附属病院 医療センター

保健師 敦賀市社会福祉協議会／岐阜市／安曇野市

助産師(専攻科)

- 富山大学附属病院／国立成育医療センター 日本赤十字社医療センター／町立中標津病院 大阪医科大学附属病院

科目等履修生・聴講生の募集について

敦賀市立看護大学では、学生たちと一緒に学ぶことができる科目等履修生・聴講生を募集しています。詳細は本学ホームページの「地域・一般の方へ」のページをご覧ください。

図書館だより

敦賀市立看護大学附属図書館は学外の方もご利用いただけます。

- 利用できる方** ◎敦賀市に在住又は勤務する18歳以上の方 ◎その他附属図書館長が適当と認める方

- 開館日時** ◎通常時 9:00～19:00 ◎休館日 土曜日及び日曜日 国民の祝日

※詳細は本学のホームページを参照してください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、開館時間の短縮および学内者へのみの利用とする場合があります。

貸出

- ◎図書の館外貸出が可能です。ただし、雑誌・新聞・視聴覚資料・禁帯出資料を除きます。
◎館外貸出には、「学外利用者証」が必要です。
※「学外利用者証」の発行を希望される方は、現住所の分る身分証明書(運転免許証・保険証・職員証)をご持参の上、カウンターへ申し出てください。

- ◎貸出冊数: 5冊以内 ◎貸出期限: 2週間以内

返却

- ◎図書は、必ず返却期限内にカウンターへご返却ください。
◎1冊でも返却期限を過ぎた図書があると、新たに図書を借りることができません。

学生食堂のご案内

敦賀市立看護大学の学生食堂は一般の方もご利用いただけます。リーズナブルなメニューが揃っていますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

- 営業時間** 平日11:00～14:00 (13:30ラストオーダー)

※営業時間は令和3年度のもので、
※夏季、年末、年度末は長期休業する場合があります。
※新型コロナウイルスの感染状況により、学内者へのみの営業とする場合があります。

編集後記

本学は開学から8年目、卒業生も約200名を輩出するに至りました。実習先や大学近隣施設で卒業生の頼もしい姿を見かけることはありましたが、卒業生の活躍をお伝えできる機会はこれまでにございませんでした。そのような中、卒業生が地域貢献活動を開始したり、大学に集う機会があったこともあり、今回の大学ニュースすずかけ8号では、敦賀市内にとどまらず各地で活躍する卒業生たちの今を中心に、お届けすることにいたしました。さらに、昨年から続くコロナ禍の状況ではありますが、地域の皆様とのふれあひも少しずつ戻って参りましたので、その様子も併せて紹介させていただきました。本学では、引き続き地域に貢献できる人材育成を目指してまいります。これからも、皆様のご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

(編集委員 野沢・伊部)